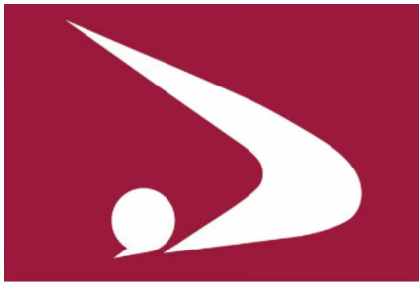


公文書館だより

第52号

令和8年6月4日

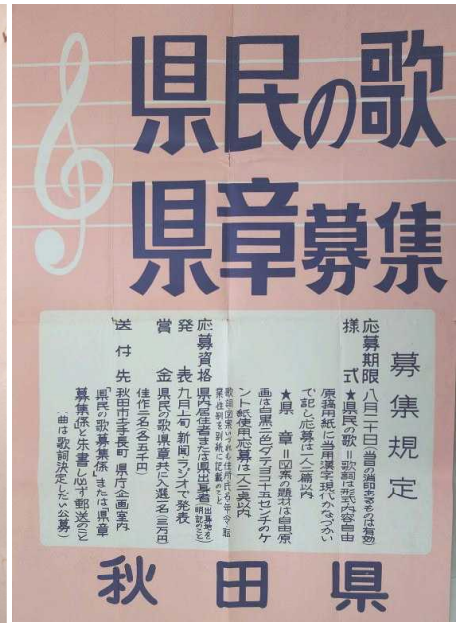


▲県章

「秋田のアを図案化し、県勢の飛躍、発展する姿を表徴したものとあります。」



▲県章決定の公報



▲募集ポスター

県のマーク「県章」は昭和34年、公募によって決められました。県章と同時に募集された「県民の歌」(♪朝あけ雲の〜)は歌詞が先に決定され、その後曲を公募し、昭和34年に制定されました。年代は違いますが、同じく公募で選ばれたのが「県の木・秋田杉」(昭和41年)と「県の鳥・ヤマドリ」(昭和39年)です。秋田杉は青森県のヒバ、長野県の本曾ヒノキと並んで日本三大美林の一つでもあります。美しい木目と強い材質が特徴です。ヤマドリは主に県内の内陸山地に生息しています。

今年度の行事予定

◆企画展

●地域連携展

昭和100年記念展

「記録資料でたどる秋田の1世紀」

東成瀬村まると自然館

5月30日(土)〜7月5日(日)

大潟村千拓博物館

8月1日(土)〜12月27日(日)

●本館展示(特別展示室)

昭和100年記念展

「記録資料でたどる秋田の1世紀」

前期 8月27日(木)〜9月23日(祝)

後期 9月26日(土)〜10月29日(木)

「大坂冬の陣と秋田藩」

11月5日(木)〜12月1日(火)

◆公文書館講座

●古文書解読講座

入門編 6月19日(金)、7月17日(金)

8月21日(金)、9月18日(金)

応用編 10月16日(金)、11月20日(金)

12月18日(金)

●記憶の護り人養成教室

7月9日(木)、9月10日(木)

10月8日(木)、12月10日(木)

◆県政映画上映会

8月27日(木)、28日(金)

今後の情勢によっては変更の可能性が
あります。御了承ください。

昭和100年記念展「記録資料でたどる秋田の1世紀」

「昭和」の幕開けから満100年を迎える今年度。私たちは、激動の時代をたくましく生き抜いた先人の歩みを振り返る大きな節目に立っています。当館では、所蔵する公文書を中心に、秋田の歩みや人々の想いを紐解く展示を開催します。

展示は、戦前から戦後と移り変わる情勢を捉えます。戦前の国の広報誌からは、当時の社会状況が浮かび上がります。戦後、荒廃からの復興を経て高度

「県民と描く“2040年の秋田のイメージ”」



経済成長へと向かう中、県はどのような舵取りを行ったのでしょうか。その答えは、歴代知事のもとで策定された「秋田県総合計画」の中にあります。代々の知事が掲げた政策を公文書から掘り起こすことで、理想の秋田を追い求めた軌跡が、より鮮明に見えてくるはずです。

本展の大きな特徴は、東成瀬村、大潟村の両教育委員会との連携です。当館での展示に加え両村への出張展示も行うほか、当館の前期展示では東成瀬村、後期では大潟村の資料を順次公開します。地域の歩みを身近に感じていただける貴重な機会です。誌面掲載のポスターは、今年3月に策定された最新の「総合計画」です。そこには「2040年の秋田のイメージ」が柔らかな手書きイラストで描かれています。

100年の歩みを知ることは、未来への「羅針盤」を持つことです。昭和の記憶や平和への願いを次世代へ語り継ぎ、共に明るい未来を創造するきっかけにしましょう。

(※開催期間等の詳細は表紙をご確認ください。)

【渡部 拓】

令和8年度の古文書解読講座(入門・応用編)

今年度の古文書解読講座は、左の日程で6月19日から開催します。「入門編」「応用編」の各コースとも全回受講を原則としています。6月からの「入門編」は、古文書のくずし字に初めて触れる方を対象

に講座を進めます。全4回を連続受講することで解読の基礎を学びます。ひらがなのくずし字から始めて、回を重ねて解読の実力を養っていきます。くずし字の辞書の使い方方も学んでいきます。

10月からの「応用編」は、くずし字の解読経験がある方を対象として、秋田藩関係の興味深い古文書の数々を講師と一緒に読み進めます。長めの古文書を読みながら、歴史的背景も学びます。入門編を受講した方がステップアップで応用編に挑戦することも可能です。

【柴田 知彰】

入門編(連続4回受講)

回	実施日	時間	テーマ	講師
第1回	6/19(金)	10:30~12:00	「大坂合戦覚書」を読む①	伊藤成孝
第2回	7/17(金)	10:30~12:00	「大坂合戦覚書」を読む②	伊藤成孝
第3回	8/21(金)	10:30~12:00	「野上陳令日記」を読む	渡部 拓
第4回	9/18(金)	10:30~12:00	「岡本元朝日記」を読む	柴田知彰

応用編(連続3回受講)

回	実施日	時間	テーマ	講師
第1回	10/16(金)	10:30~12:00	「御判物改御記録」を読む —天明8年3月5日条を中心に—	伊藤勝美
第2回	11/20(金)	10:30~12:00	「介川東馬日記」天保3年7月9日より —堺商人酢屋利兵衛の藩政批判—	金森正也
第3回	12/18(金)	10:30~12:00	「公務控」を読む —戊辰戦争軍費他調達金について—	佐々木彦一郎



令和7年度開催の入門編より

『分間江戸大絵図』について

資料紹介

今回は、当館所蔵の『分間江戸大絵図』（岡390、泉5の2点）を取り上げます。

「分間」は測量の意味で、それをもとに絵画的表現を取り入れ縮尺して作成したものを「分間絵図」といいます。寛文〜正徳期、遠近六郎兵衛道印によって実測図が刊行されていますが、この頃、実測した絵図は分間図と通称されるようになりました。

天明8年（1788）の『江戸分間大絵図』は遠近道印の図をもとにしつつも大きく改変しており、



資料①

製作者に金丸彦五郎影直の名が加えられています。図の歪みはやや大きくなる一方、情報量は大きく増えています。文政12年（1829）の『分間江戸大絵図』まではほぼ同じ版で、最後の弘化2年（1845）『天保改正御江戸大絵図』は、寛文期のような整然とした描写に復し、空間は正確になりましたが、情報量は少なくなり、情報の誤りも多くなっています。

金丸分間図で最も重視されたのは、武家屋敷です。個別の大名屋敷は網羅されています。一方で組屋敷や小規模の武家屋敷は描かれていない場合があります。次に重視されたのは寺社に関する情報で、特に名所として知られた寺社は必ず描かれています。町屋に関しては、明らかに情報を軽視している傾向がみ

れます。

さて、今回取り上げた当館所蔵資料のうち、泉明収集資料の『分間江戸大絵図』（泉5、資料①）は、慶応元年（1865）、須原屋茂兵衛が販売した木版彩色刷りの大絵図です。大名や旗本の武家屋敷には家紋と当主の名、寺社には建物と木立、町人地には町名が詳細に記載されています。ただ、この資料には、折り痕や水損による汚損と欠損部分が見られます。

そこで、令和7年度の連携展示「平沢常富とその時代」では、同絵図を列品しましたが、下谷三味線堀屋敷と呼ばれた下谷三軒町の「秋田藩江戸上屋敷」と同年のNHK大河ドラマ「べらぼう」葛重栄華乃夢嘶の舞台となった江戸の遊郭街である「新吉原」の部分については、岡文庫の同名資料（岡390、資料②）天保12年（1841）須原屋茂兵衛版の当該部分を拡大してパネルにし掲示しました。



資料②

する堀は、三味線のような形をしていたので、「三味線堀」と呼ばれ、上屋敷も「下谷三味線堀屋敷」と呼ばれていました。平沢常富などの江戸詰の家臣やその家族は、敷地の一角にある長屋に居住していました。また、「新吉原」にはドラマにも登場した「大門」や周囲に巡らされた「お歯黒溝」と呼ばれた大溝などが描かれています。

いずれにしても、この大絵図は情報量も多く、当時の様子が詳細にわかる貴重な資料であるといえます。

【伊藤 成孝】

もうひとつの熨斗包紙上書き

高橋民之助の書

昨年度の「公文書館だより」50号で、三浦畑四郎氏収集資料中の「熨斗」を紹介しましたが、今回はもう一点（三浦7-1-1）について触れてみようと思います。写真①にあるように、この熨斗の包紙上書きには以下のような記載があります（写真②は熨斗の中身の昆布）。

文政二卯八月六日
友千代様方御鈴之間被仰付
候節、御目通二而拝領

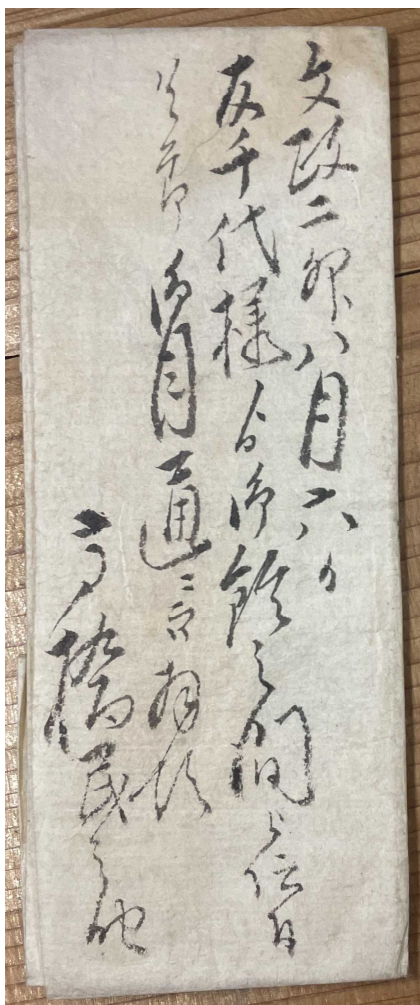
高橋民之助

「文政二年（一八一九）八月六日、鈴之間勤務を命ぜられたとき、友千代様の目の前で高橋民之助が拝領し

た」と読み取れる内容ですが、前回の高橋小平と違い、高橋民之助は系図では確認できませんでした。

友千代様とは、九代藩主義和の三男で、「義厚家譜」によると、文化十二年（一八一五）九月三日、父義和の没後に誕生した人物（のちの義尹）と考えられます。文政二年の段階で、義和の長子義厚は八歳（文化九年生、元服前）、次兄の直千代（文化十年生、文政元年没）、友千代は五歳です。

「御城内御座敷廻絵図」（県C169）は成立の時期は不明ですが、



【写真①】

「御鈴廊下」の記載があることから推測すると、五歳の友千代の秋田における生活空間は「御鈴之間」のあたり（「表」に対して「奥」であったと思われる。そうだとすれば、高橋民之助は友千代の世話係の一人に命ぜられたのかもしれない。

「義厚家譜」の記事などから、文政二年の段階では、友千代は秋田の城にいたことがわかります。その後、文政六年（一八二三）三月に江戸に向けて出発し、四月に下谷（上屋敷）に到着、同八月月に義厚の仮養子となる記事がみられ（義尹の名拝領）、同十一年四月には幕府から認められた模様です。しかし義尹は天保九年九月に浅草（中屋敷）で病没、二十四歳という若さでした。

ところで、「家譜」は藩における「公式の記録」という性質があるので、文政二年八月の記事に「友千代様」「御鈴之間」等のことが見え

【写真②】



ないのはやむを得ないものと思います。「家譜」以外の友千代関連史料には、たとえば「友千代様御授読日記」（混架25-26）があります。これは友千代様の授読係を命ぜられた野上陳令が、文政五年六月〜文政六年三月、つまり友千代が江戸に向かう直前の状況を記したものです。

また、「北家日記」にもこの時期、非常に興味深い記事が載っています。文政二年には、義厚はまだ「幼年」であったため、秋田藩にとって、前代の義和のときと同様に、「国目付の訪問」への対処が大きな政治課題となっていました。文政二年に国目付派遣の連絡があり、たびたび延期され、実際に二名の国目付が秋田を訪れたのは文政四年でした。「北家日記」六一八の文政二年八月六日条には、義厚幼年のため「国相参議」に命ぜられた北家の佐竹義文と「対立」する側にあった、家老の小野岡大和義和の「御弘二も及間敷、御目付御登 城之節は隠候而可然」という「所存」が生々しく書かれるなど、同時代資料による「舞台裏」が伝わってきます。

【伊藤 勝美】

閲覧室ミニ展示より

「野上陳令日記」第四巻のみどころ紹介！

現在閲覧室では、

3月に刊行された

「野上陳令日記」

第四巻の関連展示

を行っています。

5回目となる今回は、

初めてイラスト

による解説を取り

り入れました。写

真は秋田藩の「組下

給人」の築隼人と、「組下持」の大身

給人だった渋江和光との関係をわか

りやすく説明したものです。



閲覧室ミニ展示の様子



イラストによる解説（「組下とは」）

イラストによる解説は初の試みですが、じっくり見入る来館者の姿も見受けられ、好評を頂いています。閲覧

室ミニ展示は親しみやすさを重視し、肉筆を多く用いるなど、敢えて手作り感を前面に押し出しています。公文書館の新たな取り組みを、ぜひ閲覧室でご覧ください。

【柴田 知彰】

県旗の作成について

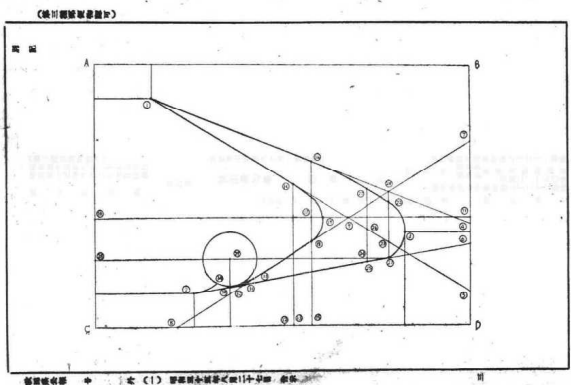
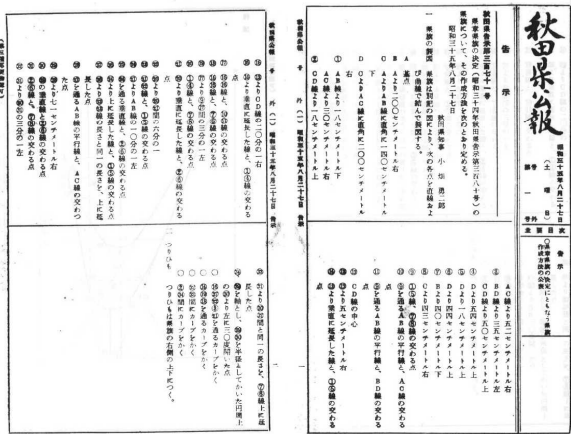
表紙で県章の話題を出したので、県旗を作成する際の決めごとについて説明します。

当然ですが、適当に描かれている訳ではなく、詳細は「県章県旗の決定にともなう県旗作成方法」として昭和35年8月27日付け県公報（複001330）で告示されています。大きさは、縦140cm×横200cm。そのサイズの中に30以上の点や線形を指定して作成されます。色は朱茶の底色に県章は白色。

見慣れたマークですが、実は細かい設定があったんです。

なお、県章を使用する際は、県が必要ですので、ご注意ください。県章が定められた頃とは、様々なことが大きく変わった現在ですが、当時の人々が県章に込めた「県勢の飛躍、発展」の思いを忘れず、私たちも歩みを進めて行きましょう。

【中田 暁】



自分の目で見る、読む文化財

公文書の中には県の有形文化財に指定されているものもあります。明治・大正・昭和（戦前）の公文書が主になります。

非公開のものもありますが、公開されているものについては、原本の閲覧が可能です。（コピーはできませんが、カメラでの撮影は可能です）

「〇〇課〇〇掛事務簿」

県庁業務の公的記録。各事業課ごとにとまとめられています。（内務部第〇課、第〇部土木課、勸業課農業掛など）

「山林原野其他原由取調書」

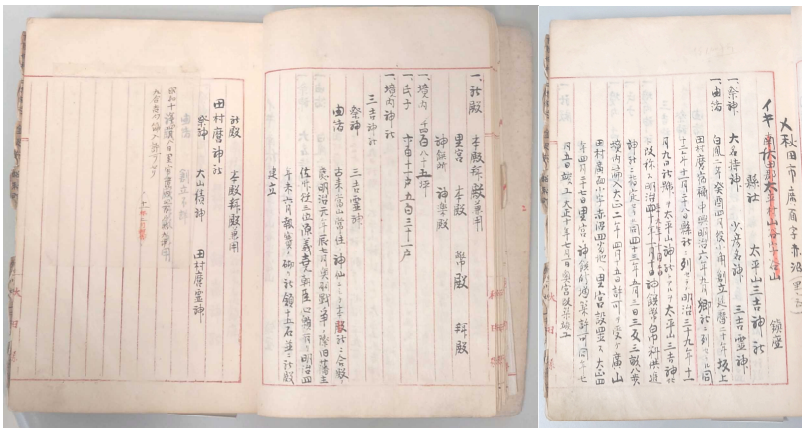
明治政府が新税制のため地租改正を終えると、山林原野の地租改正も実施。その時に作成された調査書。各郡各町村の山林や原野の持ち主・場所・面積が記載されています。

「神社明細帳」

明細帳作成当時の社殿や境内、氏子数、祭神、由緒などを調べることができます。

「士族卒明細短冊」

明治政府になり、秋田県が藩の替わりに管内士族に家禄を支給するために作成した台帳。元士族の家



「神社明細帳」より太平山三吉神社に関する記録
【資料番号】930103-02395

系であれば、ご先祖様の名前を見つけることができるかもしれません。（閲覧室には複製本があり、自由にご覧になれます）他にも様々な公文書が残されています。一度、文化財をご自分の目で確認してはいかがでしょうか。

【中田 暁】

県政映画上映会のお知らせ

公文書館では毎年県政映画上映会を開催しています。

テーマを決めて、それに沿った映像を集め、約1時間ほどにまとめたものを2日間、午前・午後の部と計4回の上映を行っております。（内容は4回とも同じ内容です）

令和8年度も8月27・28日に3階多目的ホールにて開催予定です。事前予約等が必要ありませんので、お気軽にご参加ください。

【中田 暁】

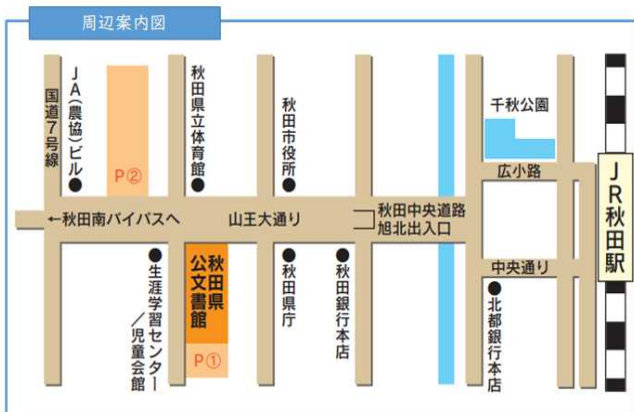


編集後記

いつも読んでくださる方、ありがとうございます。初めましての方は、これからもよろしく願います。

さて、この「秋田県公文書館だより」は創刊号（平成6年10月発行）から最新号に至るまで、秋田県公式ウェブサイトに「美の国あきたネット」内の公文書館のページでご覧になることが出来ます。「公文書館だよりバックナンバー」で検索してください。気になる方は一度覗いてみてください。

【中田 暁】



編集発行：秋田県公文書館（秋田市山王新町14-31 県立図書館と併設）
電話 018(866)8301 FAX 018(866)8303 最寄りバス停：県立体育館前
URL <https://www.pref.akita.lg.jp/kobunsho/>